

更なる高みへ

ベ^リ五輪の経験を糧に

バレーボール男子日本代表コーチ

さかなしともひこ

坂梨朋彦さん

かけがえのない時間だった 男子日本代表コーチ

パリ2024オリンピックに出場した、バレーボール男子日本代表の
コーチ・坂梨朋彦さんが、故郷・合志市に帰省し、8月15日、
合志市役所を表敬訪問しました。

準々決勝で惜しくも敗れた男子日本代表のことや今回の経験、
応援した合志市民へのメッセージを話していただきました。

“あと1点”に泣いたオリンピック

準々決勝のイタリア戦を含め、現地パリには多くの方が応援に来られていました。“最後の1点”という、その前から会場は総立ちで、皆さん勝利の瞬間を収めようと携帯電話を持って、歓声も最高潮に達していました。そこからあと1点が取れず、逆転負けを喫してしまいました。今思い返せば、この一戦は、我々のみならず、応援してくださった方々の心をいろんな意味で大きく揺さぶった試合となったように思います。予選ラウンドが終わり、“決勝トーナメントで1つ勝てば、世界のベスト4に入れる”、“あと3つ勝てばもう優勝”という思いを抱いた人も少なくなかったのではないのでしょうか。“短期決戦で世界一を決める難しさ”を学んだと同時に、まさに、“あと1点に泣いたオリンピックだったな”という感じですね。



「今後も日本のバレーボール界を支えることを期待している」と中島教育長（右）が激励

また、新たな出会いから学ぶことも多くありました。この歳になって、新たな方々と日常を共にする機会をいただけたこと、苦楽を共に分かち合えたこと。これらの経験は、間違いなく僕にとって財産であり、幸せな時間だったと感じています。

故郷・合志市の皆様へ

まずは、ご自身の時間を使って、バレーボール男子日本代表を応援してくださった方々には心から感謝しています。僕だけではなく、日本のバレーボール界全体としてお礼を申し上げます。次は、令和10年（2028年）にアメリカのロサンゼルスでオリンピックが開催される予定です。次こそは、パリよりも多く“勝ち続ける姿”を皆様にお見せできるよう、バレー界全員で日々精進していく覚悟です。改めまして、パリオリンピックでの応援、ありがとうございました。



荒木市長（右）から労いの言葉をかけられた坂梨さん

大きな経験と学びを得た2年間

日本代表コーチに招集していただいたこの2年間、選手たちの行動や言葉、各スタッフたちの仕事に対する姿勢などから、たくさんさんの刺激を受けました。中でも、フィリップ・ブラン監督のコミュニケーション力には感銘を受けました。フィリップさんは、普段の練習においても、その日の映像を必ず見て、次の日の練習前に1人1人と話をするんですよ。そして、次の日はまた違う選手に違う話をしたり、時には冗談も交えながら歩み寄ったり。また、チーム全体へ厳しく伝えて、締めるところは締めていました。そういった選手との付き合い方を傍らで見ていて、“上手だなー”、“自分も今後参考にしたいな”と、純粹に思いました。

